

# The Hotel Price Index

ホテル宿泊料金指数 2012年1月～6月



Hotels.com

ハッピーになれるホテルを探そう



# 序文

Hotels.com のHotel Price Index™ (HPI®) (ホテル宿泊料金指数)は、世界の主要都市におけるホテル宿泊料金を定期的に比較・調査したものです。HPI は Hotels.com を通じて行われた予約に基づいており、提示価格は、掲載用料金ではなく、宿泊客が実際に支払った1部屋1泊当たりの料金です。

今年で9年目を迎えた HPI は、世界中で支払われるホテル宿泊料金に関する最も信頼のおけるレポートとして認められており、メディアやホテル経営者、金融アナリスト、投資家、観光業界、並びに研究者の間で参考ツールとしての利用が高まっています。

HPI は、Hotels.com を利用する世界中のお客様が支払った1部屋当たりの実際の価格を、Hotels.com のサイトが運営対象とする各市場で販売された部屋数に基づいて加重した平均値を利用しています。

Hotels.com は、対象とするお客様、物件及び宿泊先の数において国際的スケールを有することから、チェーンと独立の両形態のホテル、更には食事なし及びB&B形式の宿泊オプションを包含したHotel Price Index は、利用可能なものの中で最も包括的なベンチマークの一つとなっています。

今回は2012年上半期を2011年の同期の実績と比較検証します。価格を参照したホテルのサンプル群には、世界各国のおよそ14万件の物件が含まれます。



# はじめに

Hotel Price Index は9年目を迎え、この度5年ぶりに、調査対象地域全てに渡って宿泊料金が上昇するというニュースに見舞われました。2012年上半期には、通貨に関わりなく、ホテル1部屋当たりを支払われる平均宿泊料金は4%上昇しました。世界でも最大のホテル市場の中にはこの数値を上回るものもあり、太平洋地域では6%、北米及びカリブ海では5%の成長に恵まれ、少なくとも接客業の回復が加速しつつあることを示唆するペースを示しています。ヨーロッパ及び中東の状況は、予測通りとは言えそれほど明るいものではなく、1%の上昇で、これはホテル価格がヨーロッパの経済予測と一致していることを示しています。

表面上の数値をより深く読み解いて見ると、更に詳しく検証すべき興味深い傾向がいくつかあります。

## 復興の兆し

ホテル市場は過去4年に渡り、火山灰に債務危機、震災に革命といった、経済と自然の両面より被った広範に渡る危機や災害に見舞われました。これらの現象が消滅することはありませんが、2012年にはこれらの状況がホテル業界にもたらした影響は以前より顕著ではなくなったようです。アジアでの宿泊料金は、日本が震災から復興し、一部の旅行者に対する主要都市の料金が大幅に上昇したことに伴い、全体で4%上昇しました。一方タイでも、2011年の洪水から日本と同様の復旧が見ら



れ、これに伴い1年前に比べて多くの主要観光地の宿泊料金が上昇しました。

市民暴動によって需要が激減した地域も、現在回復に向かっています。チュニジア、ヨルダン、そしてサウジアラビアいずれも大幅な料金の上昇がみられ、2011年には旅行者がもっと安全な旅行先へと計画を変更したことを受けて宿泊料金が急落したエジプトでさえも、ようやく危機は峠を越えたようです。

## 中国の成長

中国の成長への依存が国境を越えて拡大している点は以前から既に指摘されており、その拡大地域のリストにいくつかの主要都市が加わりそうです。中国人旅行者は今や単独で旅行することが増え、ビザに悩まされることも減って、海外での旅行やショッピングにより多額のお金を費やすようになっています。中国人が海外旅行に使った金額は、2011年だけで180億ドル伸びました<sup>1</sup>。このような需要により、香港や台北などの中国人観光客に人気の旅行先では、宿泊料金の上昇などの影響もたらされています。

<sup>1</sup> 国連世界観光機関、「UNWTO 世界観光バロメータ」(2012年3月) <http://mkt.unwto.org/en/barometer> より2012年5月30日時点のものを参照

## 南ヨーロッパの傾向

ヨーロッパ南部の主要観光市場では、国内旅行の需要の減少によって、ホテル経営者の被る影響が深刻になり始めています。ギリシャ、イタリア、スペインそしてポルトガルでは、国内の通貨価格が下落しました。国際的需要が高くないことがこの要因となっていることは事実ですが、それより深刻なのは、観光客の信頼、そして消費力の低迷です。ここに挙げる料金設定の展望を読み取るのは、全体のマクロ経済を解説するのと同じくらい難解かもしれませんが、ヨーロッパの中でもトップクラスの観光都市を訪れたいと思っており、且つそうすることが可能な経済力を持つ人々たちにとっては大変お得な状況と言えるかもしれません。

## スポーツイベントに関わる観光

ロンドンオリンピック経済がもたらす影響については、盛んに議論が行われています。オリンピック開催までにホテルが料金を大幅に引き下げたことは明白ですが、直前予約の価格は2011年夏より若干低い料金に留まっています。大勢の人がロンドンを訪れている一方で、出張者やツアーグループは、後期には戻ってくると予測されるものの、現在はロンドンを避けている状況です。他の都市では、各スポーツイベントが観光業に及ぼす影響は概してロンドンよりも良好で、特にユーロ2012欧米選手権を背景としてキエフが得た好機や、ヨーロッパ陸上競技選手権大会やその他の国際トーナメントの開催国としてヘルシンキが享受した利益などが例として挙

げられます。結論としては、大規模なイベントによって、開催都市のホテル業者が利益を得ることは事実であるものの、その中で最大のものについては例外だったようです。

## 米国の回復 -- 西海岸の人気復活

米国は2010年の始め以来、ゆっくりとした回復傾向にあり、最新の数値ではこれが加速しつつあることを示唆しています。この回復の先鋒を担うのは西海岸で、サンフランシスコやロサンゼルスといった主要都市での現地の宿泊料金が上昇しており、さらにニューヨークやマイアミ等の都市がこれに続いています。会議や出張の機会を増大させるとともに、それに合わせて消費者の支出を高めることで客室利用率を上げよう、という狙いは一貫しています。今年の下半期には、様々な経済兆候が更に入り混じって、状況に目が離せなくなるでしょう。

以上を踏まえ、業界アナリストやお得な情報をお探しの旅行者である皆様が、以下の資料に目を通し、上昇・下落、そして新規のトレンドを発見し、一番お金を使う旅行者が誰であるかを確かめる際のガイドとしてHotels.com をご利用下さい。

Hotels.com 代表取締役社長

デイビット ロシエ

# 目次

	序文	3
	はじめに	5
1.	世界の宿泊料金の変化	9
2.	主要都市の宿泊料金の変化	16
	🏠 世界のホテル料金変動	24
3.	国別で見る宿泊料金の変化	26
4.	日本の状況	30
5.	国内及び海外旅行で支払われた宿泊料金	31
6.	1泊15,000円で宿泊できる都市	33
7.	星評価別平均宿泊料金	35
8.	低料金で贅沢を	38
9.	旅行習慣	39
	日本人旅行者に人気の海外都市	39
	訪日旅行者に人気の日本国内の都市	40
10.	旅行の話題	41
	オリンピック最新情報	41
	中国人海外旅行動向に関する調査	42
	クラブサンドイッチ指数	44
	「旅先での食事」グローバルフード調査	45
	HOTELS.COMについて	46

HPIレポートでは、主に2つのデータソースに重点を置いています。

第1部 (第1章) では、2012年上半期の世界及び各地域におけるHotel Price Index (ホテル料金指数) を2011年同期と比較しています。

この指数は、同期間に渡ってHotels.com が扱った全ての取引を現地通貨で集計し、各市場規模を反映すべく加重して算出しています。ホテルの料金変動を指数で表示することにより、為替変動によって実情が歪められることなく、宿泊客が支払った実料金の変動を表すことができます。

同指数は2004年を100として、星評価1から5の全てのホテル予約を対象に含めています。

第2部 (第2章から8章) では、2012年上半期に、日本人旅行者が世界中のホテルで支払った1部屋1泊の料金を

2011年同期の比較で表しています。これは、為替とホテル料金の両方の変動を反映した、宿泊客が支払った実料金の変動を表しています。料金は日本円で四捨五入し、百分率で表した数値は1パーセントの位で四捨五入しています。

第9章では、日本及び海外で2012年上半期に最も人気のあった観光都市を取り上げます。

最終章では、Hotels.com がとらえた追加情報や心温まる旅行情報に焦点を当てています。

他の通貨単位で表示したりレポートも入手可能です。hotelsteampr@kyodo-pr.co.jp までお問い合わせください。



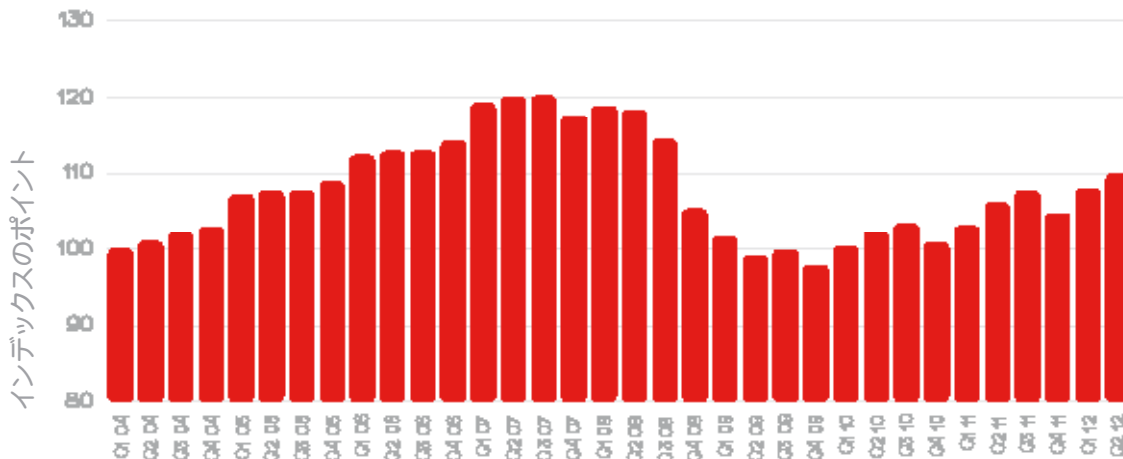
# 1. 世界の宿泊料金の変化

Hotels.com のHotel Price Indexによると、2012年上半期の世界のホテル宿泊料金の平均は、前年同期比で4%の上昇。2004年のスタート当時を100として比較する指標では108となりました。

この数値は、ピークであった2007年の119には未だに劣っており、旅行者にとってはお得であることを示していますが、今や低迷期からの回復は実証済みで、料金は全世界に渡って上昇傾向にあります。

太平洋地域の高い経済力が最も急激な上昇を実現させ、更には北米の着実な前進とアジアでの前年の価格下落からのリバウンドが見られた一方、ヨーロッパと南米は後れを取っています。これらの変化をもたらした原因と、これらが個々の都市や国に与える影響に関するより詳細な分析は、次章以降で述べています。

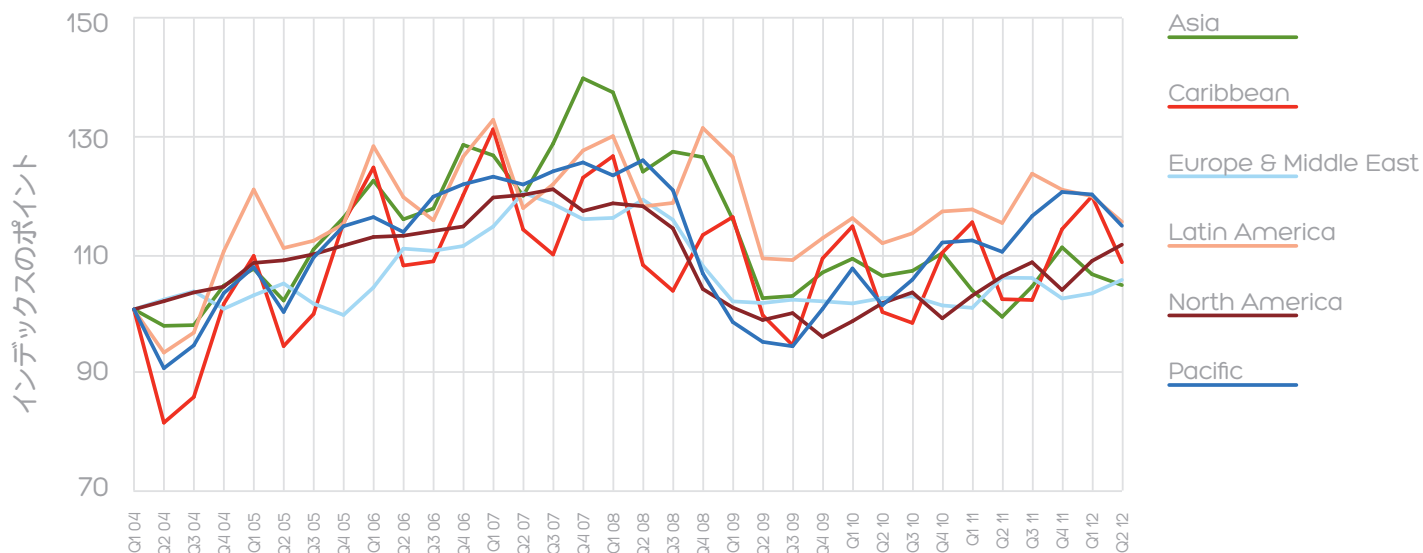
表1 世界の四半期別HPI (2004年第1四半期から2012年第2四半期)



## 太平洋地域の飛躍

- 太平洋地域は今回もホテルの平均料金の上昇率が最大の6%となりました。主な原動力となったのは健全なオーストラリア市場と、同市場の安定した法人旅行セクターです。
- 太平洋地域のHPIは2012年上半期には119となり、カリブ海地域に次いで、料金変動が落ち着いた中南米と並び第2位を占めました。
- 上記のような上昇にもかかわらず、過去3年に渡り料金が21%上がっても太平洋地域の指数は2007年上半期よりも依然として低く、2008年の半期のピークよりも9ポイント低いという事実は消費者にとっては良いニュースと受け止めることができるでしょう。

表2 地域毎の四半期別HPI (2004年第1四半期から2012年第2四半期)





Hotels.com アジア・パシフィック  
最高経営責任者  
ヨハン・スヴァンストローム

欧米で長引く政治経済の不安定な状況や為替の変動にも関わらず、アジア太平洋地域全域に及ぶ高い地方経済力のおかげでホテル料金は上昇しました。アジアの料金が穏当に上昇する一方で、太平洋地域の平均宿泊料金は大幅にアップしました。

これらの上昇の主要な原動力の一つに挙げられるのは、現地の格安航空会社（LCC）の拡大です。このことによりこの地域内の飛行機での旅行の機会が増大すると同時に低料金となったことで、旅行ブームが起こり、ネットでの予約へもつながっています。

日本で最初の格安航空会社Peach Aviationは、今年3月より運行を開始し、2011年前半に発生したその年の国内外両方の観光に深刻な影響をもたらした震災からの着実な復興に貢献してきました。国の復興が進んで旅行者が戻るにつれ、平均宿泊料金は広島や京都では大幅に上がりましたが、東京の料金は変動していません。北アジア市場では、今後12カ月の間にLCCがさらに拡大する傾向が見られます。

世界でも客室利用率が最も高いホテルを有する、シンガポールや香港のアジア太平洋地域のビジネスエリアのホテルの平均料金は、引き続き上昇しています。インドと中国では、ミドルクラスの急成長を背景に旅行者数が増えています。

ビジネス及び娯楽目的の旅行者の需要が、多くの主要市場で供給を上回ることから、アジア・パシフィック全域に渡って今後も客室利用率は上昇し続けることが見込ま

れます。しかし、例えばオーストラリアのように、為替変動や不安定な正解稀有偉材が観光地に影響を及ぼすこともあるでしょう。

しかし、どのエリアでも特典サービスを受けることが出来ます。旅行者はディスカウントを利用することも出来ますので、ぜひオンラインに注目してください。

旅行者の傾向に関して言えば、アジアが携帯電話の契約者数において世界最大であり、旅行する傾向も伸びていることから、旅行者が形態デバイス経由での予約に抵抗をかんじなくなるにつれて直前の予約を行う数が急増すると予測しています。

## アジアのリバウンド

- アジアの料金は、2011年3月に起きた日本の震災や津波、そして原発危機の後に、市場が信頼を回復するにつれ、同年上半期の下落から着実に回復してきました。HPIは4%上昇して108となり、世界的な数値と並びました。
- 上記の数値は2008年の最高値に比べると18%低いものの、この地域への、或いはこの地域内での旅行が勢いを取り戻すなか、産業も再び軌道に乗っています。
- アジアの国際的な商業中心地区や主要都市の繁栄が料金を押し上げるのに貢献し、更には格安航空会社がこの市場内で新たなルートを多数開拓したことで、旅行件数が増大しました。



Hotels.com 中南米  
バイスプレジデント  
ハビエル・エスコベード

中南米の Hotel Price Index は、2011年の同時期と比較するとわずか1%増加しただけで、大きな変化はありませんでした。ただし、全体的な成長率も大きくはないものの、個々の国は高い業績を達成し続けています。また、通貨変動も、中南米地域の多くの旅行者の旅行費用に影響を及ぼしました。

例えば、ブラジルはレジャー、ビジネス両面において観光客数が増加し、旅行産業および観光業界をリードしており中南米地域の中でも他の多くの国々との著しい差をつけています。ブラジル人は上半期、自国内においてより価格の安いホテルでの滞在を楽しんでいましたが、主要通貨に対するレアルの切り下げのために、海外の旅行先での価格が上がり、結果としてブラジル人の海外旅行費用が増加したと考えられます。

2014年のFIFA ワールドカップと2016年のオリンピックという2つの注目を集めるスポーツイベントの開催がブラジルでここ数年内に予定されています。これらの主要トーナメントに先立ち、大都市でのインフラ計画が実施される予定となっており、宿泊施設数が大幅に改善される見込みです。

メキシコにおける状況もブラジルと同様で、前年と比較した現地の価格にほとんど違いは見られませんでした。しかし、特定の海外旅行先の場合は、メキシコ貨幣ペソの下落が原因でこの状況は一変しています。

一般的にヨーロッパは、多くの中南米の旅行者が選択する人気の高い旅行先の一つです。マドリッド、リスボンといった従来から人気のあるヨーロッパの1泊の料金が前年比で下落しており、他地域の同クラスのホテルに比べはるかに安い値段で4つ星、または5つ星のホテルでの宿泊が可能であるため、旅行者はお得な値段で贅沢さを味わうことができます。

## 中南米の料金停滞

- 中南米では、高い経済力の継続的成長にも関わらず、全般のホテル宿泊料金はこの期間中変動がなく、同地域のHPIは、ヨーロッパや中東と同じ1%の上昇伸びを経て119となっています。
- この結果、中南米はカリブ海地方に続き、太平洋地域と並ぶ2位となりました。
- 中南米の料金が最高だったのは指数が129だった2007年で、2012年上半期の料金は2005年のレベルを依然下回っています。



Hotels.com EMEA  
バイスプレジデント  
マシュー・ウォールズ

過去6カ月間、ヨーロッパの多くの国々においてユーロ圏危機の影響が見られ、その影響力はさらに拡大を続けています。国内需要のみならず、ホテル料金が下落し続けているギリシャやスペインといった人気の高い南ヨーロッパ地域への海外旅行者にも影響を及ぼしています。これはホテル経営者にとっては喜ばしいニュースではありませんが、晩夏の太陽を満喫したい消費者にとっては、お買い得商品が用意されるということになります。

2011年における主な外的要因は、環境に関連していました。2012年においては、スポーツが有力な促進剤となったようです。今年の最も大きな話題は、ロンドンオリンピックです。当初のホテル料金は非常に高価でしたが、オリンピックの開催が近づくにつれ値段は下落しました。ロンドンはオリンピックイベントを楽しむ世界中からの観光客であふれ、その多くは直前予約といったお買い得商品の恩恵を受けたことと思われます。

キエフといったその他の欧州都市を、大規模スポーツイベントの開催により恩恵を受けました。ユーロ2012サッカー欧州選手権の開催都市のひとつであるキエフは、ヨーロッパ全体においてHPIの上昇率が最も高かった都市です。ヨーロッパ陸上選手権大会の開催都市であるヘルシンキも同様に、HPIが上昇しました。

2016年に予定されているリオデジャネイロオリンピッ

クを含め、世界中でこれらスポーツイベントを伴種類  
の観光が、今後どのように発展していくかを見るのは  
興味深いことです。

中東では、落ち着きを取り戻した政治状況により観光  
産業が回復に向かいつつあり、シャルム・エル・シェイ  
クやマラケシュなどの多くの旅行先では需要が増加  
し、価格も急上昇しています。このような喜ばしいニュ  
ースがある一方、2011年のアラブの春の強い影響を受  
けた地域では、それ以前の需要レベルに達するには  
前途遼遠となっています。

ヨーロッパおよび中東全体においては、観光産業に影  
響を及ぼす複数の経済的要因により、激動の12カ月  
でしたが、現状、これらの要因のいくつかは安定し始  
め、影響を受けた地域の一部では回復の動きが見え  
ています。

## ヨーロッパと中東の成長が鈍下

- HPIの増加率が最も低かったのは、ヨーロッパと中東の1%で、指標は103の伸びにとどまりました。この数値は2005年上半期と同値で、2007年及び2008年に達成した116の最高値を13ポイントも下回っています。
- ユーロ圏の危機が及ぼした影響は、今回の調査結果において、ヨーロッパの主要市場の多くにおける価格の下落となって反映されています。
- 中東の様相はこれとは異なっており、2011年のアラブの春によって引き起こされた不安定な情勢からこの地域が落ち着きを取り戻すにつれ、広範囲に渡って料金の上昇が見られました。



Hotels.com 北米  
バイスプレジデント  
ヴィクター・オーウェンズ

ロンドンは今、世界で最も崇拜されているスポーツイベントの開催都市として世界中の注目を浴びました。Hotels.com® Hotel Price Index™も、あなたの旅行プランに含まれるのにふさわしい多くの素晴らしい都市をお知らせしています。

北米における旅行者数増加要因として考えられる要因は、国内の経済的信頼の向上です。上半期はガソリンの値段が下がり、金利も非常に低かったため、多くの家庭が去年よりは若干多い可処分収入を得ました。数年前と同等の高いレベルとは言えないものの、2008年および2009年と比較すれば経済は確実に向上しており、国内における旅行の予約数の増加を見てもそれは明らかです。

また今年は、ホテル経営者が競合ホテルとの差別化を図るために、ホテルの改装、修理、およびホテルのクラス区分の拡大を図る等の傾向が見られ、価格の上昇の要因となっています。

星評価の位置づけに関わらず、旅行者はこれまで以上に付加価値商品を探求しています。すべて込みのパッケージ提供で有名なカリブ海地域では、3%の成長が見られました。

アメリカ経済は不安定な状態にありますが、Harris Interactive が実施したExpedia 夏旅行調査によると、5人のうち約3人が、今年の夏季休暇を過ごすために旅行を計画しています。どこへ旅行に行ったら良いかわからない場合の、弊社のエキスパートによる助言は、“自らの情熱に従え”です。バンフでロッククライミングに挑戦する、ニューオーリンズでポークボーイサンドイッチを食べる、トロントでアートに夢中になる、あるいはオースティンでインディーズ音楽に浸る等、あなたの興味が何であったとしても、Hotels.com であなたにぴったりの旅程と最適な場所が見つかります。

## 北米の躍進

- 北米はホテル平均宿泊料金が5%の成長、109の指数で、速さでは2番目の上昇を示しました。依然トップにリードを許しているものの、上昇率は加速しています。
- この期間中、アメリカ合衆国の経済はホテルセクターを大いに活気づけましたが、ユーロ圏の経済危機の影響が世界に広まる中で、この勢いも減速の気配を見せているようです。
- 旅行者にとっての朗報は、料金が2007年のピーク時よりも10ポイント下回ったままで、2006年よりも依然安い状態が続いているということです。

## トップをいくカリブ海地方

- トップを占めたのはカリブ海地方で、ホテルの平均宿泊料金が2011年上半期の120という数値から5%上昇したことを受け、2012年上半期のHPIは126と、太平洋地域や中南米を大きく上回りました。
- カリブ海地方の料金は、特にアメリカ合衆国からの休暇シーズンのピークと重なる年始時はいつも高いものですが、この上昇を持ってしても、2006年のレベルと同等にしかならず、2007年のレベルには10ポイント及ばない状況です。

カリブ海



北米



## 2. 主要都市の宿泊料金の変化

以下のセクションでは、2012年上半期（H1）中、日本からの旅行者が支払った実料金を日本円で、2011年の同期に支払われた日本円料金と比較して反映します。

日本人旅行者は円高の追い風を受け、HPIの対象に含まれる海外主要都市の半分以上において、より低い平均料金の恩恵を受けました。しかし一方では、オーストラリアや米国、更には自国の震災や津波、原発事故に続いた2011年上半期中の深刻な経済変動に直面した地域での料金急騰を受け入れねばなりませんでした。

### 日本の復興が地域全体の料金上昇に貢献

日本人が再びこの地域全体を旅行するようになったおかげで、多くの地域で宿泊料金が上昇しました。しかしながら、国内旅行者に対する日本の宿泊料金の調査は、必ずしもプラスの結果ばかりではありません。広島は12%の回復で10,246円となりましたが京都市は11%減の12,021円、東京は4%減の12,282円、大阪は2%減の9,784円という結果になりました。これらの詳細及び国内のその他の料金変動は第4章で説明しています。

伝統的な国際商業都市においては、料金はインフレ傾向にあり、香港は高い需要を受けた結果12%増の18,053円、一方シンガポールではシンガポール航空ショーや様々な国際コンサートといった大規模なイベントへ訪れる観光客の後押しを受け9%増の21,922円でした。

新進気鋭の主要都市においても実績は向上しており、ジャカルタは16%増の11,868円、日本や中国からの観光客の流入を受けたソウルは7%増の15,171円、更に台北も、中国の需要の増大とホテル株の向上の恩恵を受け、3%増の12,069円となりました。

中国は、一部都市では料金は停滞しており、北京では1%増の9,018円、上海は1%減の8,755円ですが、広州、深センはいずれも12%の上昇で、それぞれ8,877円、7,229円でした。

インドでは、ムンバイが24%増の15,445円、ニューデリーは1%増の11,486円ですが、チェンナイはHPIの中で最大の下落を記録し、38%減の9,675円でした。

バケーション目的の旅行については、様々な様相を呈しています。インドネシアのバリ島は2%と若干上昇して16,355円でした。タイでは、プーケットが6%増の





15,306円となりましたがコサムイは23%減の17,909円、ビーチリゾートで知られるパタヤは19%減の7,236円、チェンマイは12%減の6,530円となりました。マレーシアでは、ペナンが5%増の11,671円となった一方でランカイは、依然日本の旅行者にとってはHPIで最大宿泊料金であるものの、3%落ち込んで23,699円でした。カンボジアのアンコール地域への玄関口に当たるシェムリアップは9%減の6,584円でした。

この他の地域については、日本人旅行者にとってはHPIで最安料金の都市となったフィリピンのセブ島は14%減の6,198円という非常にお得な料金になりました。

## 勢いに乗る太平洋地域

太平洋地域は2012年上半期のHPI上昇率が6%と、上昇ペースが最速ですが、この原動力となっているのはこの地域で経済力が最大のオーストラリアで、同国では料金が継続して上昇しています。

料金が最も高い都市はパースで、HPIは20%と大きく上昇して19,146円となり、これはHPIの中で4番目に高い上昇率となりました。この理由としてはオーストラリア西部の資源ブームで、この地域にプレミアが付き、料金上昇に追い打ちをかけていることが挙げられます。メルボルンの宿泊料金は16%と大幅に上昇して13,845円、続くブリスベンでは料金が12%上昇して14,989円に達しましたが、一方でシドニーは安定した料金で、1%という若干の上昇で15,525円でした。



オーストラリアの都市の中で唯一HPIが下落したのはゴールドコーストで、観光スポットとしての人気に陰りが出て、主要な市場であるニュージーランド及びヨーロッパからの旅行客が減少したことを受けて、13%減の12,902円となりました。

## 米国都市の躍進

2012年上半期には、米国を訪れる日本人観光客は、日本人に人気の多くの都市で宿泊料金の高騰に直面しました。

カリフォルニア州では、サンフランシスコが8%増の15,721円、サンディエゴが4%増の12,471円、そしてロサンゼルスでは2%の伸びを見せて13,467円となりました。休暇の旅行先では結果は一概ではなく、ハリウッドが11%増で16,490円となった一方で、ディズニーランド

のあるアナハイムは3%減の14,953円でした。

東海岸部では、マイアミが24%の伸びを見せて17,365円と、HPIでは最大の上昇率であったのに対し、ボストンは19%増の20,679円、ニューヨークは5%とやや緩やかな伸び率の21,653円で、HPIの中では第3位、依然米国の中では最高料金の地位を維持した一方で、ワシントンD.C.は6%落ち込んで16,090円でした。

米国カジノの本場、ラスベガスは8%増の11,404円でしたが、他の観光地域はマイナスの伸びで、世界最大の娯楽リゾート、ディズニーワールドが拠点を置くレイクブエナビスタが6%の落ち込みを見せ19,075円、更にニューオリンズも12%減の13,279円でした。ハワイでは、ホノルルが9%の伸びを見せ20,640円でしたが、ハワイ島は11%の下落で20,538円でした。



大阪

## ヨーロッパは全般に下落傾向

円高の影響で、ヨーロッパの宿泊料金は日本人旅行者にとっては大幅に安くなりました。

ジュネーブは、5つ星のホテルからビジネスが離れていったことを受けてHPIが15%落ち込んだにもにかかわらず、21,155円で今回も日本人にとってはヨーロッパで最も高い都市としてHPIで第1位の座を獲得しました。チューリッヒはホテル業者が競争力の増強を狙って料金を値下げしたことから2%下落し16,829円でした。

ユーロ圏の経済危機は、引き続き多くの人気都市の宿泊料金を影響を及ぼしました。アテネでは、ホテルの平均宿泊料金が更に10%下落し11,324円となりました。スペインでは、バルセロナが5%減の14,491円、マドリッドが3%減の11,579円でした。隣国のポルトガルでは、リスボンが5%減の11,343円、一方アイルランドの首都ダブリンは17%回復して10,742円となりました。

ユーロ圏の他の地域では、ローマが17%とヨーロッパでは最大の落ち込みを見せて15,517円、ベネチアは7%減の20,845円、ブリュッセルは6%の落ち込みで12,980円、そしてパリは4%減の19,116円でしたが、フローレンスは4%上昇して17,036円でした。高い経済力を持つドイツでは、プラス、マイナス双方の結果が出ています。以前から国内でも最もお得な宿泊料金の1つに数えられるベルリンは、料金が13%上がって11,315円に到達し

ましたが、ミュンヘンは7%減の12,457円、フランクフルトは同地で開かれた見本市の需要が低調であったため2%減の12,760円でした。

東ヨーロッパの都市では、成長の伸び悩み、或いは停滞が見られ、クラコフは10%減の8,389円、プラハは12%減の11,688円、ブタペストは3%減の10,916円、そしてワルシャワが同じく3%減の15,491円でした。

スカンジナビアの都市で宿泊料金が上昇したのは1都市のみでした。ヘルシンキは、ヨーロッパ陸上競技選手権大会など複数の大規模な国際スポーツイベントの恩恵で11%増の14,331円、一方ストックホルムは9%減の15,491円、そしてオスローは4%減の13,833円でした。

イギリスでは女王の即位50周年記念祭とオリンピックが開催されるこの年、宿泊料金が4%増の19,617円となった一方で、エジンバラを訪れた日本人旅行者は、平均宿泊料金が12%下落して14,031円となった恩恵を受けました。



表3 2012年上半期の平均宿泊料金及びその前年同期比変動率（通貨単位：円）

都市名	H1 2012	H1 2011	変動率
ランカイ	23,699	24,542	-3%
シンガポール	21,922	20,077	9%
ニューヨーク	21,653	20,668	5%
ジュネーブ	21,155	24,796	-15%
ベネチア	20,845	22,520	-7%
ドバイ	20,728	21,354	-3%
ボストン	20,679	17,362	19%
ホノルル	20,640	19,013	9%
ハワイ島	20,538	23,198	-11%
ロンドン	19,617	18,948	4%
カンクン	19,191	20,580	-7%
パース	19,146	15,899	20%
パリ	19,116	19,828	-4%
レイクブエナビスタ	19,075	20,308	-6%
ミラノ	18,186	18,504	-2%
香港	18,053	16,089	12%
コサムイ	17,909	23,132	-23%
マイアミ	17,365	13,996	24%
モスクワ	17,298	17,401	-1%
フローレンス	17,036	16,314	4%
チューリッヒ	16,829	17,123	-2%
ハリウッド	16,490	14,904	11%
バリ島	16,355	15,972	2%

都市名	H1 2012	H1 2011	変動率
マカオ	16,271	16,314	0%
ワシントンD.C.	16,090	17,172	-6%
アムステルダム	15,934	15,568	2%
サンフランシスコ	15,721	14,560	8%
シドニー	15,525	15,421	1%
ローマ	15,517	18,622	-17%
ストックホルム	15,491	17,031	-9%
ムンバイ	15,445	12,414	24%
プーケット	15,306	14,411	6%
ソウル	15,171	14,179	7%
ブリスベン	14,989	13,437	12%
アナハイム	14,953	15,386	-3%
バルセロナ	14,491	15,228	-5%
シカゴ	14,456	14,366	1%
ヘルシンキ	14,331	12,882	11%
シアトル	14,091	14,315	-2%
エジンバラ	14,031	16,013	-12%
メルボルン	13,845	11,937	16%
オスロー	13,833	14,484	-4%
コペンハーゲン	13,748	15,518	-11%
ロサンゼルス	13,467	13,241	2%
バンクーバー	13,318	15,228	-13%
ニューオーリンズ	13,279	15,006	-12%
イスタンブール	13,202	13,661	-3%

都市名	H1 2012	H1 2011	変動率
ブリュッセル	12,980	13,855	-6%
ゴールドコースト	12,902	14,820	-13%
フランクフルト	12,760	12,547	2%
トロント	12,731	13,303	-4%
サンディエゴ	12,471	12,036	4%
ミュンヘン	12,457	13,367	-7%
東京	12,282	12,760	-4%
台北	12,069	11,746	3%
京都	12,021	13,460	-11%
ジャカルタ	11,868	10,236	16%
プラハ	11,688	13,225	-12%
ペナン	11,671	11,107	5%
マドリッド	11,579	11,981	-3%
ニューデリー	11,486	11,403	1%
ラスベガス	11,404	10,544	8%
リスボン	11,343	11,954	-5%
アテネ	11,324	12,569	-10%
ベルリン	11,315	10,034	13%
ブタペスト	10,916	11,261	-3%
ダブリン	10,742	9,155	17%
グランドキャニオン	10,492	11,168	-6%
広島	10,246	9,165	12%
オーランド	9,988	10,435	-4%
クアラルンプール	9,889	10,294	-4%

都市名	H1 2012	H1 2011	変動率
大阪	9,784	9,980	-2%
チェンナイ	9,675	15,645	-38%
北京	9,018	8,916	1%
ワルシャワ	8,968	9,239	-3%
オークランド	8,941	8,960	0%
メキシコシティ	8,939	9,617	-7%
広州	8,877	7,939	12%
上海	8,755	8,824	-1%
ホーチミン	8,577	9,204	-7%
クラクフ	8,389	9,334	10%
バンコク	8,321	8,682	-4%
マニラ	8,269	8,201	1%
ハノイ	8,014	8,395	-5%
パタヤ	7,236	8,933	-19%
深セン	7,229	6,460	12%
シエムリアップ	6,584	7,229	-9%
チェンマイ	6,530	7,400	-12%
セブ島	6,198	7,235	-14%

北京



表4 2012年上半期、前年同期比最大の伸び率  
(通貨単位:円)

都市名	H1 2012	H1 2011	変動率
マイアミ	17,365	13,996	24%
ムンバイ	15,445	12,414	24%
パース	19,146	15,899	20%
ボストン	20,679	17,362	19%
ダブリン	10,742	9,155	17%
メルボルン	13,845	11,937	16%
ジャカルタ	11,868	10,236	16%
ベルリン	11,315	10,034	13%
香港	18,053	16,089	12%
ブリスベン	14,989	13,437	12%
広島	10,246	9,165	12%
広州	88,77	7,939	12%
深セン	72,29	6,460	12%
ハリウッド	16,490	14,904	11%
ヘルシンキ	14,331	12,882	11%
クラコフ	8,389	9,334	10%
シンガポール	21,922	20,077	9%
ホノルル	20,640	19,013	9%

表5 2012年上半期、前年同期比最大の価格下落率  
(通貨単位:円)

都市名	H1 2012	H1 2011	変動率
チェンナイ	9,675	15,645	-38%
コサムイ	17,909	23,132	-23%
パタヤ	7,236	8933	-19%
ローマ	15,517	18,622	-17%
ジュネーブ	21,155	24,796	-15%
セブ島	6,198	7,235	-14%
バンクーバー	13,318	15,228	-13%
ゴールドコースト	12,902	14,820	-13%
エジンバラ	14,031	16,013	-12%
ニューオーリンズ	13,279	15,006	-12%
プラハ	11,688	13,225	-12%
チェンマイ	6,530	7,400	-12%
ハワイ島	20,538	23,198	-11%
コペンハーゲン	13,748	15,518	-11%
京都	12,021	13,460	-11%
アテネ	11,324	12,569	-10%
ストックホルム	15,491	17,031	-9%
シエリアアップ	6,584	7,229	-9%

表6 ヨーロッパの料金最安値都市 (通貨単位:円)

都市	料金
クラコフ	8,389
ワルシャワ	8,968
ダブリン	10,742
ブタペスト	10,916
ベルリン	11,315
アテネ	11,324
リスボン	11,343
マドリッド	11,579
プラハ	11,688
ミュンヘン	12,457

表7 アジアの料金最安値都市 (通貨単位:円)

都市	料金
セブ島	6,198
チェンマイ	6,530
シェムリアップ	6,584
深圳	7,229
パタヤ	7,236
ハノイ	8,014
マニラ	8,269
バンコク	8,321
ホーチミン	8,577
上海	8,755

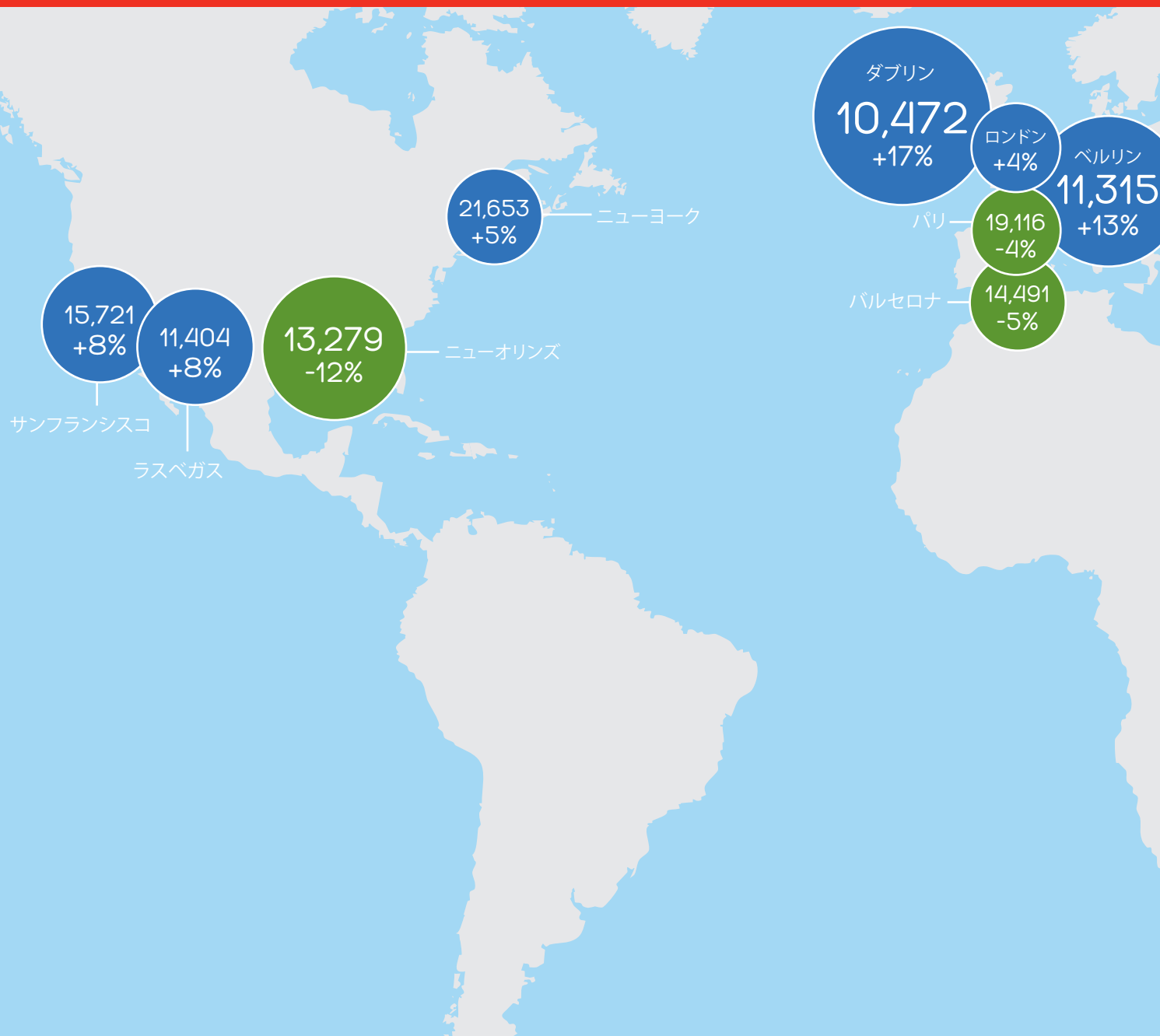
表8 米国の料金最安値都市 (通貨単位:円)

都市	料金
ニューヨーク	21,653
ボストン	20,679
ホノルル	20,640
ハワイ島	20,538
マイアミ	17,365
ハリウッド	16,490
ワシントンD.C	16,090
サンフランシスコ	15,721
アナハイム	14,953
シカゴ	14,456

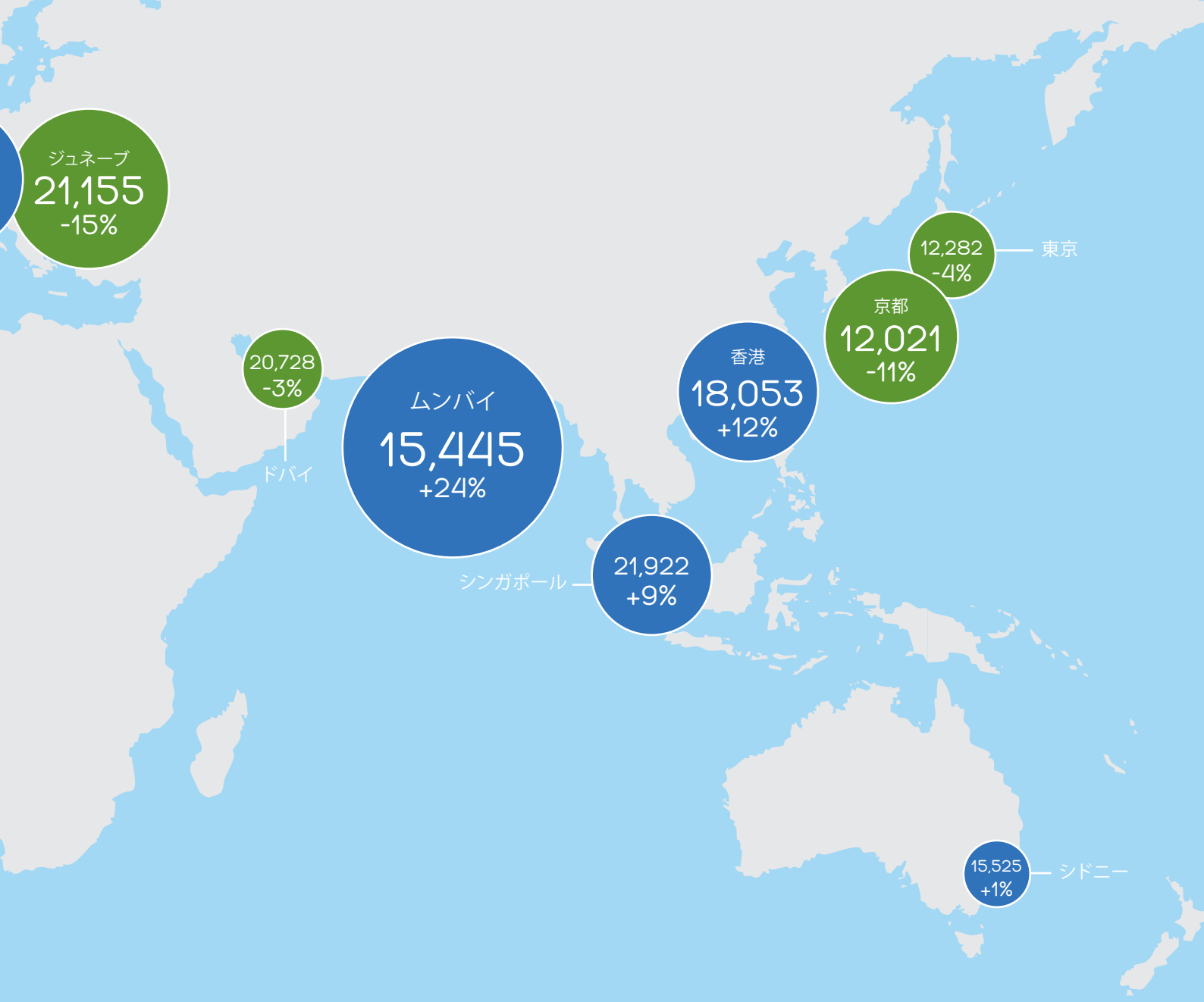
表9 世界の上位ショッピング都市 (通貨単位:円)

都市	料金
シンガポール	21,922
ニューヨーク	21,653
ドバイ	20,728
ロンドン	19,617
パリ	19,116
ミラノ	18,186
香港	18,053
東京	12,282
ベルリン	11,315
バンコク	8,321

# 世界のホテル料金変動







### 3. 国別で見る宿泊料金の変化

2011年上半期の政変や自然災害の後、中東やアジアの情勢が安定さを取り戻したことを受け、日本の旅行者が支払う宿泊料金は、HPIが対象とする国々の大半において下落しました。

日本の宿泊料金は8%落ち込み、10,934円でしたが、昨年と比較すると変動率は穏やかになっています。

アジアの他の地域を見ると、シンガポールがこの年の大規模な会議や展示イベントの開催と観光客の増加を受けて、日本人旅行者にとってはHPIの中で宿泊料金の最も高い国で、9%増の21,922円となりました。一方最安料金の国を見ると、カンボジアが旅行者に最もお得な料金で、7%の下落を受けて宿泊料金は最安の6,410円でした。

より近郊の旅行については、HPIの中のアジア諸国のうち8カ国で料金が下落し、そのうちマレーシアは12%減の11,056円、インドネシアは9%減の13,277円、タイは8%減の9,462円、インドが6%減の11,000円と、全般では日本人旅行者の支払う料金は安くなりました。この傾向に反するのは、前述のシンガポールを合わせて韓国と台湾のみで、前者は6%増の15,000円、後者は1%増の11,583円、更に中国は変動なしの8,671円でした。

ヨーロッパでは、スイスが7%の下落にもかかわらず高料金順で第4位の18,484円、一方日本人にとって一番節約が可能だった国はポーランドで、9%減の8,552円でした。



ユーロ圏の経済危機の打撃が最も深刻だった国々の中でも、ギリシャは18%という更なる落ち込みを見せて13,861円と、HPIの中で最速の下落率となったほか、イタリアは7%減の16,651円、ポルトガルは8%の落ち込みで10,885円、そしてスペインは5%減の12,798円でした。一方で、アイルランドは11%もの回復を示して10,389円に達し、フィンランドも複数の国際スポーツイベント開催を受けて9%の上昇で14,118円となりました。

他のヨーロッパ諸国については、イギリスでは大規模なイベントを受けて日本人が払う宿泊料金は5%値上がりして17,588円となった一方で、チェコ共和国は12%減の11,639円、デンマークは10%減の13,844円でした。

他には、ブラジルの強い経済力が原動力となって宿泊料金を9%押し上げ18,629円とし、平均宿泊料金では第3位を占めたほか、ロシアは最大伸び率の15%を記録し、17,076円に達しました。

HPIが対象とする42カ国のうち、料金が上昇したのは12カ国のみで、停滞が3カ国、減少したのは27カ国でした。

表10 2012年上半期の国別平均宿泊料金と前年同期比変動率（通貨単位：円）

国名	H1 2012	H1 2011	変動率
シンガポール	21,922	20,077	9%
アラブ首長国連邦	19,783	20,254	-2%
ブラジル	18,629	17,092	9%
スイス	18,484	19,828	-7%
イギリス	17,588	16,743	5%
フランス	17,270	17,936	-4%
ロシア	17,076	14,816	15%
マカオ	16,849	17,562	-4%
イタリア	16,651	17,861	-7%
アメリカ合衆国	16,492	15,767	5%
ノルウェー	15,825	15,766	0%
スウェーデン	15,039	15,851	-5%
韓国	15,000	14,129	6%
オランダ	14,793	14,378	3%
オーストラリア	14,616	14,157	3%
オーストリア	14,177	14,989	-5%
フィンランド	14,118	12,916	9%
カナダ	13,980	14,797	-6%
ギリシャ	13,861	17,001	-18%
デンマーク	13,844	15,402	-10%
インドネシア	13,277	14,568	-9%
トルコ	13,100	12,992	1%
スペイン	12,798	13,488	-5%
ベルギー	12,514	13,278	-6%

国名	H1 2012	H1 2011	変動率
メキシコ	12,377	14,175	-13%
ドイツ	12,060	12,575	-4%
チェコ共和国	11,639	13,182	-12%
台湾	11,583	11,435	1%
マレーシア	11,056	12,517	-12%
インド	11,000	11,734	-6%
日本	10,934	11,938	-8%
ハンガリー	10,896	11,233	-3%
ポルトガル	10,885	11,823	-8%
アイルランド	10,389	9,392	11%
フィリピン	9,507	9,830	-3%
タイ	9,462	10,283	-8%
モロッコ	9,273	9,970	-7%
ニュージーランド	9,161	9,200	0%
ベトナム	8,878	9,052	-2%
中国	8,671	8,671	0%
ポーランド	8,552	9,445	-9%
カンボジア	6,410	6,906	-7%

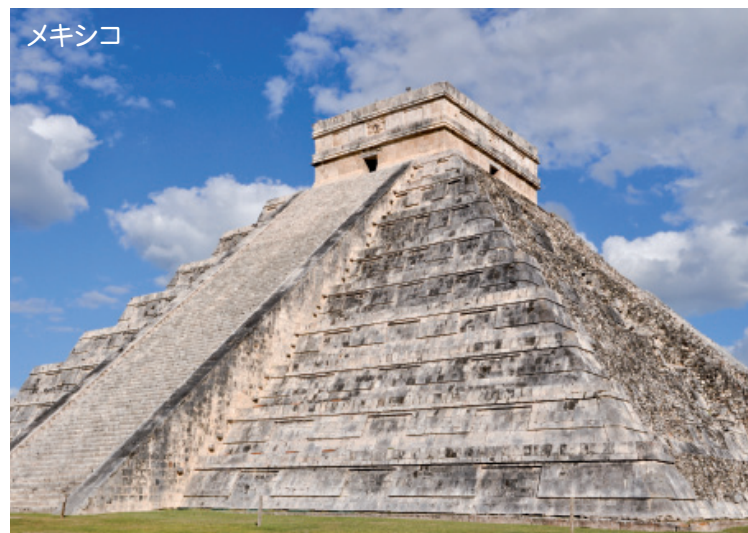
表11 価格上昇率順で見る2012年上半期の宿泊料金と前年同期比変動率（通貨単位：円）

国名	H1 2012	H1 2011	変動率
ロシア	17,076	14,816	15%
アイルランド	10,389	9,392	11%
ブラジル	18,629	17,092	9%
フィンランド	14,118	12,916	9%
シンガポール	21,922	20,077	9%
韓国	15,000	14,129	6%
イギリス	17,588	16,743	5%
アメリカ合衆国	16,492	15,767	5%
オーストラリア	14,616	14,157	3%
オランダ	14,793	14,378	3%
台湾	11,583	11,435	1%
トルコ	13,100	12,992	1%



表12 価格下落率順で見る2012年上半期の宿泊料金と  
前年同期比変動率（通貨単位：円）

国名	H1 2012	H1 2011	変動率
ギリシャ	13,861	17,001	-18%
メキシコ	12,377	14,175	-13%
チェコ共和国	11,639	13,182	-12%
マレーシア	11,056	12,517	-12%
デンマーク	13,844	15,402	-10%
インドネシア	13,277	14,568	-9%
ポーランド	8,552	9,445	-9%
日本	10,934	11,938	-8%
ポルトガル	10,885	11,823	-8%
タイ	9,462	10,283	-8%
カンボジア	6,410	6,906	-7%
イタリア	16,651	17,861	-7%
モロッコ	9,273	9,970	-7%
スイス	18,484	19,828	-7%
ベルギー	12,514	13,278	-6%
カナダ	13,980	14,797	-6%
インド	11,000	11,734	-6%



## 4. 日本の状況

日本政府観光局 (JNTO) の推定では、2012年上半期の訪日旅行者数は前年比で42%増加しおよそ400万人で、中でも中国及び東南アジアからの個人及び団体旅行者の数が増加しています。

市場が信頼を取り戻すにつれて客室利用率が回復する中、主要ビジネスホテルが料金の値上げの開始、ディスカウントの提供の終了又は改定を行いました。

それにも関わらず、日本人旅行者が支払う国内ホテルの宿泊料金は、2012年上半期は8%低く、平均料金は10,934円まで下がっており、加えて日本の主要都市の料金推移の傾向は一定ではありませんでした。

最も好調だった都市は福岡でした。同都市の料金上昇率は17%で9,997円だった一方、広島も12%の上昇で10,246円、札幌は6%の上昇で8,554円でした。

東京はHPIの中では国内旅行者にとって最も宿泊料金の高い都市であり、4%の下落にもかかわらず12,282円でした。日本人旅行者を対象に期間限定プロモーションが行われ、これらが低価格で国内旅行をすることが出来た要因の一つになっています。

国内5番目の都市である神戸では、宿泊料金が29%減の11,101円となり、続いて名古屋が17%減の7,769円、京都は11%減の12,021円でした。震災後、関東地方からこれらの都市への避難があったのが一つの原因でしたが、2012年はその必要がなくなったためとみられます。

表13 2012年上半期日本国内1部屋1泊あたりの平均宿泊料金と前年同期比変動率 (通貨単位:円)

都市名	2012	2011	変動率
東京	12,282	12,760	-4%
京都	12,021	13,460	-11%
神戸	11,101	15,621	-29%
広島	10,246	9,165	12%
福岡	9,997	8,545	17%
大阪	9,784	9,980	-2%
横浜	9,698	9,717	0%
札幌	8,554	8,074	6%
名古屋	7,769	9,315	-17%



# 5. 国内及び海外旅行で支払われた宿泊料金

## 海外旅行

前回同様、海外で一番お金を使ったのは日本人で、前年同期に比べ若干上昇し14,732円、続いてオーストリア人が3位から2位に浮上して14,048円、代わって3位に転落したのはスイス人で、13,838円でした。

支払った額の最も多かったトップ10の国の面々は前年と同じであるものの、表中では大きな変動がありました。中国人は2つ順位を上げて6位の平均12,919円、更にブラジル人は10位から3つ上げ7位で12,816円の支払額でした。スウェーデン人は7位から10位に順位を下げ、12,521円でした。

更に下位を見ると、韓国が24位から7つ上昇して17位に付ける11,440円、シンガポールはやはり25位から18位へと飛躍する11,322円でした。一方順位を下げたのは香港で、12位から16位の11,460円と、下位に後退しました。

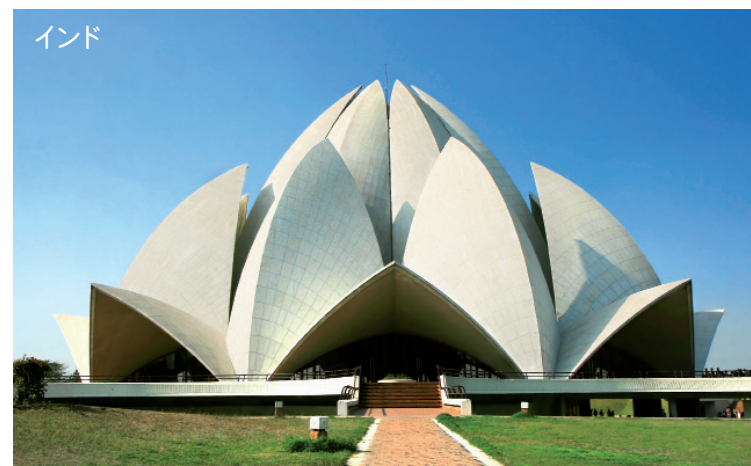
メキシコ人は支払った平均料金が9,841円と、国順では全体で最も堅実な結果となりました。

## 国内旅行

日本人旅行者は、海外旅行で1泊10,920円を支払い、順位を2つ下げて13位の結果となりました。

2012年上半期の上位3カ国は変わらず、スイスからの旅行者が国内では15,977円と最も高い金額を支払っており、続いてノルウェー人の14,691円、そしてシンガポール人がすぐ後に続き14,658円でした。オーストラリア人はここでも順位を上げて、7位から4位の13,988円でした。韓国人は12,220円で6位に上がりました。

表の下位を見ると、国内旅行で安値を求めているのはインド人で1泊7,226円、次はスペイン人の7,496円と中国人の7,634円で、こちらは前年の10,350円から大きく落ち込みました。



## 出費が多いのは海外？国内？

調査対象の26カ国中、19の国の人々が国内よりも海外の宿泊により多くの金額を支払っており、中でも日本人旅行者は、海外に比べ国内では平均で3,812円少ない出費となっています。

支出額の差が最も多かったのは中国人で、海外旅行では1泊あたり国内旅行に比べて5,285円多い宿泊費用

を支払っています。これに続くのがインド人で、その差は4,060円、ニュージーランド人は3,877円でした。

逆に、シンガポールの人々は自国のホテルの宿泊費用に、1泊あたり3,336円多く支払っており、続くスイス人はその差が2,139円、ノルウェー人は1,338円の差がありました。

表14 旅行者が海外及び国内旅行で支払った平均宿泊料金（通貨単位：円）

国名	海外	国名	海外	国名	国内	国名	国内
日本	14,732	アイルランド	11,589	スイス	15,977	オランダ	10,187
オーストラリア	14,048	デンマーク	11,574	ノルウェー	14,691	イギリス	10,173
スイス	13,838	香港	11,460	シンガポール	14,658	アメリカ合衆国	10,004
アメリカ合衆国	13,678	韓国	11,440	オーストラリア	13,988	オーストリア	9,487
ノルウェー	13,353	シンガポール	11,322	スウェーデン	12,685	ドイツ	9,143
中国	12,919	インド	11,286	韓国	12,220	イタリア	8,957
ブラジル	12,816	フランス	11,069	ロシア	12,081	ニュージーランド	8,526
ロシア	12,751	イタリア	11,057	デンマーク	11,761	アイルランド	8,474
イギリス	12,667	ドイツ	10,959	フィンランド	11,588	メキシコ	8,370
スウェーデン	12,521	フィンランド	10,946	香港	11,297	フランス	8,364
ニュージーランド	12,403	スペイン	10,859	カナダ	11,260	中国	7,634
カナダ	12,030	オランダ	10,848	ブラジル	11,123	スペイン	7,496
オーストリア	11,772	メキシコ	9,841	日本	10,920	インド	7,226



## 6. 1泊15,000円で宿泊できる都市

日本人旅行者が1泊15,000円の予算で最高級ホテルに宿泊するつもりなら、HPIが対象とするホテルでその目的を満たせる都市はただ1つ、ポーランドの首都ワルシャワになります。

4つ星のホテル客室であれば同費用での選択肢は、ヨーロッパならバルセロナ、マドリッド、プラハなどの12都市、アジアならバンコク、北京、ニューデリー、上海などの6都市、更にその他の地域ではドバイ、ラスベガス、メルボルンがあります。

また、この費用で泊まれる3つ星のホテルの場合、更に24都市増え、この中にはロンドン、パリ、東京が含まれますが、ボストン、マイアミ、ニューヨークは2つ星のみ、ワシントンD.C.については1つ星のホテルにしか泊ることが出来ません。



表15 世界の人気都市で1泊15,000円で宿泊できるホテルの星評価

都市名	星評価
ワルシャワ	★★★★★
バンコク	★★★★★
バルセロナ	★★★★★
北京	★★★★★
ベルリン	★★★★★
ブリュッセル	★★★★★
ブタペスト	★★★★★
ドバイ	★★★★★
フランクフルト	★★★★★
ヘルシンキ	★★★★★
イスタンブール	★★★★★
ジャカルタ	★★★★★
ラスベガス	★★★★★
リスボン	★★★★★
マドリッド	★★★★★
メルボルン	★★★★★
ミュンヘン	★★★★★
ニューデリー	★★★★★
プラハ	★★★★★
上海	★★★★★
台北	★★★★★
ウィーン	★★★★★

都市名	星評価
アムステルダム	★★★
バリ島	★★★
カンクン	★★★
シカゴ	★★★
コペンハーゲン	★★★
香港	★★★
ロンドン	★★★
ロサンゼルス	★★★
ミラノ	★★★
モントリオール	★★★
モスクワ	★★★
オーランド	★★★
パリ	★★★
ローマ	★★★
サンフランシスコ	★★★
シアトル	★★★
ソウル	★★★
シンガポール	★★★
ストックホルム	★★★
シドニー	★★★
東京	★★★
トロント	★★★
バンクーバー	★★★
ベネチア	★★★

都市名	星評価
ボストン	★★
マイアミ	★★
ニューヨーク	★★
ワシントンD.C.	★



# 7. 星評価別平均宿泊料金

Hotels.comはHPIIに関し、宿泊客が旅行の予算を最大限に活用できるように、世界の人気都市にある、異なる星評価のホテルに対し支払われた平均宿泊料金を調査しました。1泊あたりの平均宿泊料金で、下は費用効果の高い9,662円から上は超高級の51,337円にまで及び世界の5つ星ホテルがあることを考慮すれば、行き先を決める前に様々な宿泊先の都市を調べてみるのが妥当な判断です。

5つ星の中で最高料金、51,337円を付けたのはミラノで、ニューヨークの51,318円とベネチアの45,664円がこれに続きました。前回同様、最もお得な5つ星ホテルを提供するのはワルシャワで1泊9,662円、次はリスボンの15,996円、上海は16,060円でした。

4つ星を見るとヨーロッパが最もお得で、ブタペストの平均宿泊料金が7,978円となっていますが、安値の2番手と3番手はアジアになっており、バンコクが8,456円、上海がここでも9,008円と名を挙げました。

星評価の低い方を見てみると、やはり同じような傾向がみられ、2つ星ホテルの中で最も安い宿泊料金を提供する的是ニューデリーの2,613円、上海の2,824円、そしてバンコクの2,665円でした。少ないお金で米国を旅行するのであれば、2つ星ホテルの平均宿泊料金が4,371円のラスベガスが間違いなく候補です。

アジアで5つ星評価のホテル宿泊料金が最も高いのは、表中7位の東京で36,304円。東京は4つ星ホテルの

料金もアジアで最も高く、表では12番目となる19,650円です。ただし東京は星の数が少なくなると料金もお得になり、3つ星は10,521円、2つ星は7,005円となります。

## ホテルの星評価について

万国共通の星評価方式というものには存在せず、各国独自のシステムがあり、中にはイギリスのように複数の評価方式を有する国もあります。つまり、ホテルを予約する際、旅行者は、同じ星評価のホテルであっても、基準や設備は国によって異なる可能性がある点に留意する必要があります。

表16 2012年上半期星評価別平均宿泊料金  
(通貨単位:円)

都市名	★		★★	
	★★	★★★	★★★★	★★★★★
アムステルダム	8,382	12,771	16,490	23,533
バリ島	3,437	6,977	15,331	35,795
バンコク	2,665	4,240	8,456	16,628
バルセロナ	8,647	11,365	14,308	24,229
北京	4,935	5,499	9,162	17,266
ベルリン	5,977	7,540	10,932	19,966
ボストン	14,235	18,502	24,855	33,176
ブリュッセル	N/A	9,396	12,290	16,094
ブタペスト	N/A	5,047	7,978	17,053
カンクン	N/A	11,359	25,103	25,963
シカゴ	8,091	14,496	18,332	N/A

都市名	★★★	★★★★	★★★★★	★★★★★
コペンハーゲン	6,461	12,023	17,503	29,363
ドバイ	N/A	7,932	12,505	34,656
フランクフルト	N/A	10,334	11,692	18,517
ヘルシンキ	6,731	11,548	14,811	22,160
香港	5,515	11,725	19,038	35,076
イスタンブール	N/A	6,500	12,789	24,221
ジャカルタ	N/A	5,268	11,016	22,219
ラスベガス	4,371	6,599	11,403	20,334
リスボン	N/A	7,394	10,203	15,996
ロンドン	7,940	12,412	20,896	37,869
ロサンゼルス	7,916	14,137	24,633	40,241
マドリッド	N/A	8,611	10,648	21,336
メルボルン	N/A	8,134	14,903	23,138
マイアミ	9,332	15,149	29,741	N/A
ミラノ	N/A	10,026	17,336	51,337
モントリオール	9,300	13,553	16,754	N/A
モスクワ	N/A	11,690	16,455	27,363
ミュンヘン	8,845	10,582	13,334	21,731
ニューデリー	2,613	5,723	13,015	19,550
ニューヨーク	13,018	18,957	26,686	51,318

都市名	★★★	★★★★	★★★★★	★★★★★
オランダ	5,208	10,722	22,536	N/A
パリ	9,235	14,059	23,742	43,163
プラハ	N/A	5,132	9,155	18,133
ローマ	7,053	10,641	15,905	32,720
サンフランシスコ	9,472	14,935	22,450	N/A
シアトル	10,186	13,023	19,051	N/A
ソウル	6,852	10,885	15,843	27,228
上海	2,824	5,792	9,008	16,060
シンガポール	7,055	13,454	19,220	35,866
ストックホルム	11,182	13,095	16,423	N/A
シドニー	N/A	9,672	16,084	25,340
台北	5,284	8,799	14,234	26,625
東京	7,005	10,521	19,650	36,304
トロント	9,322	11,468	18,526	N/A
バンクーバー	9,160	12,094	18,815	28,924
ウィーン	N/A	14,647	22,146	45,664
ベネチア	N/A	10,781	11,490	24,078
ワルシャワ	N/A	7,203	9,735	9,662
ワシントンD.C.	10,038	15,767	22,397	N/A

表17 2012年上半期の5坪視ホテルの宿泊料金が最も高い都市トップ10 (通貨単位:円)

都市名	★★★★
ミラノ	51,337
ニューヨーク	51,318
ベネチア	45,664
パリ	43,163
ロサンゼルス	40,241
ロンドン	37,869
東京	36,304
シンガポール	35,866
バリ島	35,795
香港	35,076

表18 低価格で高級感を:2012年上半期の、5つ星ホテルの宿泊料金が最も安い都市トップ10 (通貨単位:円)

都市名	★★★★
ワルシャワ	9,662
リスボン	15,996
上海	16,060
ブリュッセル	16,094
バンコク	16,628
ブタペスト	17,053
北京	17,266
ブラハ	18,133
フランクフルト	18,517
ニューデリー	19,550



ミラノ



リスボン

## 8. 低料金で贅沢を

最高級ホテルを求める日本人旅行者にとっては、全世界で料金が大幅に下がった2012年上半期はチャンスとなりました。

ヨーロッパでは、多くの都市で手ごろな料金で休暇を過ごせるようになり、5つ星ホテルの宿泊料金が、リスボンでは19%減の15,996円、フランクフルトでは16%減の18,517円、ベネチアは13%減の45,664円、他にもヨーロッパの5都市で5つ星ホテルの宿泊料金が引き下げられました。

他に5つ星カテゴリで料金の値下げがあったのは、上海が16%減の16,060円、カンクンが13%減の25,963円、そしてシドニーは10%減の25,340円でした。

また、ヨーロッパでは8つの都市で4つ星ホテルの料金値下げがあり、表のトップを占めました。プラハは21%減の9,155円、続いてブタペストが18%減の7,978円、ミラノは14%減の17,336円でした。アジアで料金値下げが最も大きかったのはニューデリーで、14%減の13,015円、一方ワシントンD.C.は米国内で最大の落ち込みを見せ、10%減の22,397円でした。

表19 下落する高級ホテル料金:2011年上半期から2012年同期にかけて最高級ホテル料金下げ幅の著しかった都市 (通貨単位:円)

都市名	星評価	H1 2012	H1 2011	変動率
プラハ	★★★★	9,155	11,553	-21%
リスボン	★★★★★	15,996	19,811	-19%
ブタペスト	★★★★	7,978	9,743	-18%
上海	★★★★★	16,060	19,205	-16%
フランクフルト	★★★★★	18,517	21,995	-16%
ミラノ	★★★★	17,336	20,097	-14%
ニューデリー	★★★★	13,015	15,068	-14%
モスクワ	★★★★	16,455	18,946	-13%
ローマ	★★★★	15,905	18,297	-13%
ベネチア	★★★★★	45,664	52,669	-13%
カンクン	★★★★★	25,963	29,789	-13%
ミュンヘン	★★★★	13,334	14,927	-11%
バルセロナ	★★★★★	24,229	27,276	-11%
ミュンヘン	★★★★★	21,731	24,291	-11%
ワシントンD.C.	★★★★	22,397	25,012	-10%
ウィーン	★★★★	11,490	12,776	-10%
ブリュッセル	★★★★★	16,094	17,944	-10%
シドニー	★★★★★	25,340	28,252	-10%
プラハ	★★★★★	18,133	19,937	-9%
ローマ	★★★★★	32,720	35,836	-9%
ストックホルム	★★★★	16,423	17,863	-8%

# 9. 旅行習慣

## 日本人旅行者に人気の海外都市

2012年上半期には、日本人に人気の海外旅行先のトップチャートに4つの都市が新たにランクインしました。タムニング、バンクーバー、ワシントンD.C.に代わって、15位にミラノ、18位にウィーンが、そして20位にクアラルンプールが入っています。

順位が最も上がったのは上海で、11位から7位と、トップ10に入ったほか、サンディエゴが16位へと順位を4つ上げました。バンコクとシンガポールも、それぞれ5位、6位と順位を3つ上げています。また、台北は順位を下げ、7位から13位に転落しました。

トップ20のうちの8つをアジアの都市が占め、米国とヨーロッパの都市がそれぞれ6つランクインしています。上位4都市は前年同期と変わらずホノルル、ソウル、ニューヨーク、パリが占め、変わらぬ人気を博しています。

表20 2012年上半期の日本人旅行者に人気の海外旅行先ベスト20

順位	都市名
1	ホノルル
2	ソウル
3	ニューヨーク
4	パリ
5	バンコク
6	シンガポール
7	上海
8	香港
9	ロサンゼルス
10	ロンドン
11	ラスベガス
12	サンフランシスコ
13	台北
14	ローマ
15	ミラノ
16	サンディエゴ
17	バルセロナ
18	ウィーン
19	北京
20	クアラルンプール



## 訪日旅行者に人気の日本の都市

訪日旅行者に人気の日本国内都市の上位4位は2011年と変わらず、1位を守った東京、そして大阪、京都、福岡といった大都市が旅行者に人気でした。

下の順位を見ると、札幌が9位から5位まで上がり、那覇も10位から7位まで上がりました。



表21 2012年上半期の訪日旅行者に人気の国内旅行先ベスト10

順位	都市名
1	東京
2	大阪
3	京都
4	福岡
5	札幌
6	名古屋
7	那覇
8	横浜
9	広島
10	神戸



# 10. 旅行の話題

## オリンピック最新情報

ロンドンオリンピックも終了し、その華々しさも一段落したところで、オリンピック開催時期のホテル料金と、消費者が実際に支払った料金を見てみましょう。

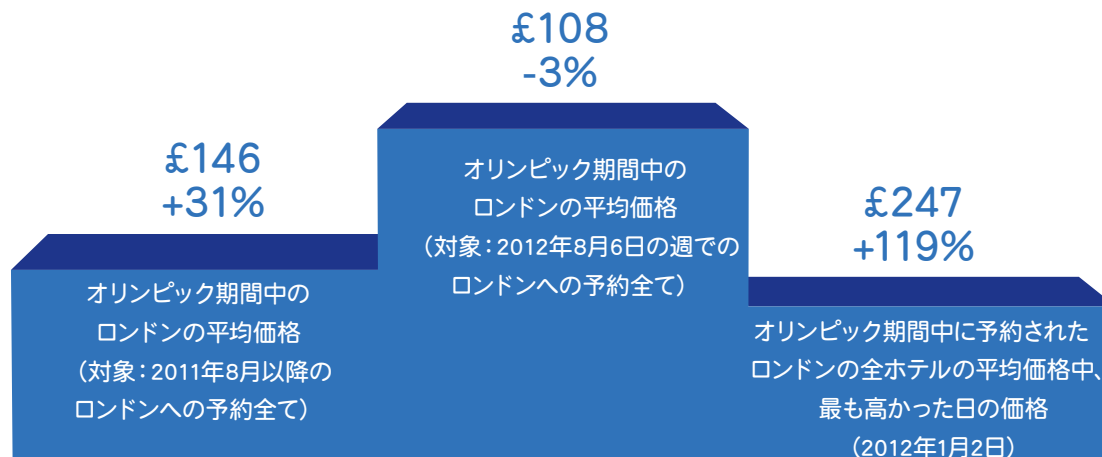
オリンピック前の期待は高く、2012年1月時の大会中のホテル滞在費用は119%まで上昇していました。しかし、開会式が近づくと、ホテル経営者が客室稼働率を向上させるためにレートを引き下げたため、価格が下落し始めました。その結果、最終的には1泊平均料金が、昨年の直前予約料金を下回るという現象が起きました。

2011年8月より受け付けられたオリンピック大会観戦のためのホテル予約の最終平均価格は146ポンドで、前年比31%の増加でした。しかし、最後まで根気よく格安

商品を待った場合の平均額は108ポンドで、これはイベント終了前1週間の去年の価格と比較して、3%下回っています。

宿泊施設数を増加させることによる資本の投下は、間違いなく有益なことでしょう。オリンピックに先立ち、新しいホテルが開設され、市場で新たに利用可能となった部屋数は12,000以上となり、全部屋数では140,000以上にのぼりました。その他多くのホテルにおいても、大規模な改装が行われています。

これらホテル増設などの要因と、オリンピック全体を通じた大々的なマスコミ報道と合わせ、ロンドンには2013年以降においても高い見返りを手にするでしょう。



% 変動は前年同期と比較

## 中国人海外旅行動向に関する調査

Hotels.com は、中国人旅行者の増加による世界のホテル市場の動向の変化を理解するためのChinese International Travel Monitor (中国人海外旅行モニター、CITM) を、2012年7月よりスタートさせました。

中国人の海外旅行者数は、2011年には前年比で22%上昇<sup>ii</sup> しており、ここ数年のうちには中国が現在最大の海外旅行市場であるドイツと米国を追い抜くと専門家は予測しています<sup>iii</sup>。

世界のホテルで働く5,000人以上のホテル業者を対象に行った調査で、大半の回答者が中国人の海外旅行ブームは今後も続くと予測していることが分かりました。更にそのうちの5人に1人 (22%) は、最大で現状比40%の増加を見込んでいます。

更にこのレポートでは、中国人の客層が、より自立し、自主性を持ち、年齢が若く、海外の文化やしきたりに精通した人々へと移行していることも判明しています。

主要な市場で不透明な経済環境が長引く中で、ホテルにとっては中国人旅行者をもてなすことが最優先課題となるはずです。多くのホテル経営者はこういった傾向に適應すべく、中国語(マンダリン)を話すスタッフや中国語の資料、中華メニューやエンターテイメントのオプション、

そして支払いには中国銀聯 (China UnionPay) カードのサービスを提供し始めています。

Hotels.com アジア・パシフィック 最高経営責任者 ヨハン・スヴァンストロームは、「まだ香港やマカオが多いですが、中国人は2011年には7,000万件<sup>iv</sup> の海外旅行をしています。急成長するこの市場に対し、何らかの手を打つことは既に競争戦略上、不可欠なものになっているのではないのでしょうか。」と述べています。

このレポートの全容に関しては、 [hotelsteampr@kyodo-pr.co.jp](mailto:hotelsteampr@kyodo-pr.co.jp) までお問い合わせください。

### ホテルの追加予約のサービス

41%



中国のテレビ番組

42%



中国語 (マンダリン)  
を話すスタッフ

46%



中華メニュー

54%



中国語版の  
ホテルウェブサイト

53%



中国語の新聞

62%



中国銀聯  
(China UnionPay)  
カードサービス

ii 数値の出典は、国家観光管理局及び中国観光研究院発行の2012年中国海外旅行の展開に関する年次報告書、 <http://eng.ctaweb.org/>

iii Thraenhart, Jens (2012) Essential China Travel Trends. China Travel Trends Retrieved: 2012年5月29日、 [http://www.chinatraveltrendsbook.com/downloads/Essential\\_China\\_Travel\\_Trends\\_Dragon\\_Edition.pdf](http://www.chinatraveltrendsbook.com/downloads/Essential_China_Travel_Trends_Dragon_Edition.pdf) より

iv 数値は2012年中国海外旅行の展開に関する年次報告書より

## ホテル業者による中国人旅行客の変化 10年前との比較 (CITM調べ)

「ただの団体観光客ではなく、自主性も備わっています。」 - ノルウェー

「裕福で教養も持ちです。」  
- アイルランド

「食生活や身のこなし、言語といったヨーロッパの“文化”に親近感を抱くようになりました。」 - ドイツ

「富裕層の方々だけでなく、日本を訪れる一般層の方々の割合も増えました。」  
- 日本

「単身で出張よりも休暇中にご家族で旅行する方々を多く目にします。」 - 米国

「高級ブランドに強い関心があります。」 - フランス

「インターネットを頻繁に使います。」 - イタリア

「旅行に慣れていて、英語も上手く、気軽に話しやすいです。」 - スペイン

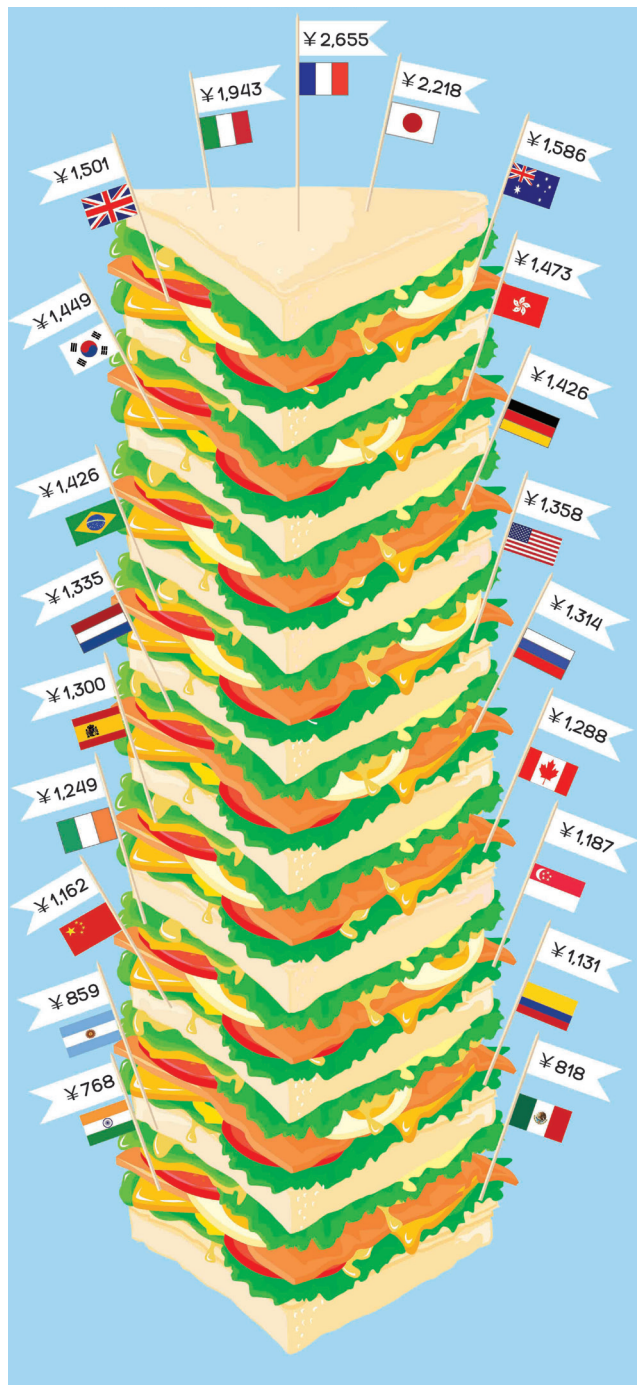
「インド料理が好きです。」 - インド

「文化への関心があり、購買力も高いです。」  
- ブラジル

「内装も含め、よりハイグレードなお部屋を予約されます。」  
- シンガポール

「訪れた先々の文化に興味を抱いています。」  
- アルゼンチン

「旅慣れていて知識も豊富、そしてグループから離れて旅行することに、より自信を持っています。」  
- オーストラリア



## クラブサンドイッチ指数

Hotels.comの調査の結果、世界で最もロマンチックな都市パリが、世界で最も高額なクラブサンドイッチの都市に挙げられました。チキンとベーコン、卵、レタス、そしてマヨネーズを挟んだ伝統あるこのサンドイッチは、世界中のホテルで提供されており、ホテルの専門家に値ごろ感を表す指標として利用されています。世界中のホテルメニューに含まれる、最も認知度の高いアイテムの1つに数えられるこの食品を用いたクラブサンドイッチ指数(CSI)は、休暇を過ごす旅行者にとって自分たちが休暇を楽しむ場所にかかる費用の目安を示すバロメータとなります。

CSIの平均価格は、調査対象の国の主要都市にある30のホテルで、客がクラブサンドイッチに対し実際に支払った料金をもとに算出します。Hotels.comは、26カ国に及び5つ星、4つ星及び3つ星の計750のホテルでクラブサンドイッチの価格を調べました。

フランスの首都パリのクラブサンドの値段は、5つ星ホテルで提供される4,340円。3つ星、4つ星、5つ星ホテルの平均価格も2,655円と最も高額でした。2番目に高い都市はジュネーブで、ここではクラブサンドの平均価格は2,612円、続けてオスローの2,477円でした。調査対象都市の中で最も安価なクラブサンドが買える都市はニューデリーで、わずか768円でした。

日本は4位にランクインし、東京のクラブサンドの平均価格は2,218円という結果でした。

シェフであり、レストランオーナーでもあり、さらにTVホストも務めるジョン・トロードが、完璧なクラブサンドイッチの作り方について語った動画インタビューは、<http://www.youtube.com/watch?v=S45AYGYIDL4>から閲覧できます。

## 「旅先での食事」グローバルフード調査

～日本食を世界の人々の口に届ける～

Hotels.comが新たに実施した、全世界を対象とした食べ物に関するアンケートの結果、日本食は世界の旅行者からの投票で好きな料理の第3位に選ばれ、世界の味となる期待も高まっています。27,000人を超える旅行者を対象に行ったこのアンケートの結果、現在の傾向として伝統的に人気を誇るイタリア料理やフランス料理に加わり、和食の競争熱が高まっているようです。

海外旅行を楽しむ人々の間の人気は、依然としてイタリア料理（32%）とフランス料理（24%）で、この2つがランキングの1、2位を占めるものの、「日出ずる国」日本の料理が世界の人々の味覚を魅了し始めています。アンケートを行った人々のうち18%が寿司、天ぷら、ラーメン、蕎麦を挙げており、高級料理に関して言えばその傾向が特に強くなっています。

その他のアジア諸国もトップ10リストに名を連ねており、この中には中国（13%）、タイ（8%）、台湾とインド（5%）があります。スペインの5位（11%）は、おそらくパエリアやタパスの人気に負うところが多いでしょう。また、

ハンバーガーやフライドポテト愛好家が多いアメリカ合衆国が6位（10%）の地位を獲得するのに貢献したようです。

### 世界の旅行者が選ぶ、旅行先のローカルフードが 一番美味しいと思う国

順位	国・地域名	得票率
1	イタリア	32%
2	フランス	24%
3	日本	18%
4	中華人民共和国	13%
5	スペイン	11%
6	アメリカ合衆国	10%
7	メキシコ	8%
8	タイ	8%
9	台湾	5%
10	インド	5%



# HOTELS.COMについて

Hotels.comは、オンラインでの宿泊施設の予約サービスを提供するウェブサイトの第一人者で、国際的チェーンホテルやオールインクルーシブ・リゾートから、現地で人気のホテルやB&Bに至る世界中の約155,000件の施設を、最適な宿泊先を予約するために必要なあらゆる情報と合わせて扱っています。Hotels.comはヨーロッパ、北米及び中南米、アジアや太平洋地域、中東、南アフリカに85を超えるサイトがあり、これらの多くは現地の言語で作成されています。日本語サイトは2004年に開設され、2012年には新たにヘブライ語のサイトが加わりました。

Hotels.comでは、業界でも最大の契約担当チームを有し、お客様のために最もお得な料金を交渉するほか、値引きや特別サービス、プロモーションを頻繁に提供しています。常連客へ配布するeニュースレターでは、他では受けられないオファーや、後日予定の値引きサービスに関する事前告知を提供しています。サイト上には、実際にホテルに滞在したユーザーからの650万件を超えるレビューも掲載されており、お客さまが予約先を選ぶうえでの参考となるはずで

全世界で利用可能な業界随一のロイヤルティープログラム、「ウェルカム・リワード」を通じ、65,000のホテルで10泊につき1泊の無料宿泊をお客様に提供しています(www.hotels.comに定めるウェルカム・リワードの諸条件に従います)。プライスマッチ保証の下で、お客様が支払済みのホテルで他にHotels.comより安い料金が提供されていることを見つけた場合、Hotels.comは差額

を返金いたします (Hotels.comが定めるプライスマッチの諸条件に従います)。

お客様のご予約は、オンライン、又は多言語対応のコールセンターのいずれかにおいて承っております。携帯電話やタブレット端末用の特別アプリもwww.hotels.com/deals/mobileよりダウンロードが可能で、これを使えば旅行先からでも予約が可能な20,000件もの直前の特典にアクセスできます。

過去にも多くの賞を受賞してきたHotels.comは、2012年にはバイトレベルより2012年の最良グローバルウェブサイトのトップ5に認定されました。バイトレベルの成績表では、ウェブサイトを、世界的認知度、ナビゲーション、グローバル及びモバイルアーキテクチャ及びローカリゼーション、そして社会的取り組みの面で評価します。また、Hotels.comは今年もキーノート・コンペティティブ・リサーチ調査結果より、「最優秀総合顧客体験賞」を受賞しました。

Hotels.comは、世界有数のブランドも含めた多岐に渡る品揃えを展開する、世界でも最大のオンライン旅行会社、Expedia社の一員です。Facebook、Twitter及びYouTubeで、Hotels.comをぜひフォローして下さい。

## 詳細情報について

全ての地域に関する詳細情報、取材の問い合わせは、下記を通じてHotels.com までお問い合わせください。

### Hotels.com 日本広報事務局

國時真紀、井口了太 (共同PR内)

03-3571-5326

hotelsteampr@kyodo-pr.co.jp

### Hotels.com アジアパシフィック シニアPRマネージャー

Zoe Chan

+852 3607 5719

zchan@hotels.com



© 2012 Hotels.com, LP. Hotel Price Index、(HPI®) の調査内容は、Hotels.com, LPの登録商標または商標です。無断複写・転載を禁じます。